

平成28年度  
英語教育強化地域拠点事業  
＜県指定＞公開授業研修会



会場校：太田市立旭中学校

# 拠点地域（太田市）と旭中学校の研究主題

意見や考えを伝え合う生徒の育成

～即興的に伝える活動を意識した授業内容

の工夫を通して～



太田市の  
**おおたん**  
です！

# 意見や考えを伝え合う生徒の育成の 基本的な考え

- ▶ 外国語科の一番の目標は、「生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成」であり、実際に英語でコミュニケーションをすることによって育成される。
- ▶ 事前に準備した原稿をそのまま読んだり、暗記したことを発表したりするだけでは、このような能力は十分には伸ばすことができない。事前に原稿を用意せずに即興的に英語でやりとりをする言語活動を継続的に取り入れ、「自分の意見や考えを英語で相手に伝えることができた」「相手が自分の英語をわかってくれた」と思える喜びや達成感を味わわせることで、意見や考えを伝え合う生徒を育成していくことを研究の主題とした。
- ▶ この考えは、群馬県教育委員会が出している学教教育の指針の英語科の重点でもある。

# 即興的に伝える活動を重視した授業内容の工夫とは？

- ▶ 即興的に伝える活動は、事前に原稿等の準備をせず、なるべく文字を介さずにその場で意見や考えを伝える活動と考えた。
- ▶ 生徒たちが活躍する将来は、グローバル化がさらに進み、外国での生活はもちろん、日本においても英語を使ってコミュニケーションを取る機会がもっと増えてくる。
- ▶ 間違いを恐れず、文字などを介さずに意見や考えを相手に伝える活動を「即興的に伝え合う活動」と捉え、意図的に授業で取り入れることで、コミュニケーション能力を高めることをねらいとしている。

# 公開授業の構想

授業づくりで大切にしたこと

# 授業づくりで大切にしたこと

1. 題材（単元）構想を工夫

2. Warm-Up（帯活動）で即興的に伝える活動

3. 授業を英語で行う

4. 小中の連携を意識した指導

# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ①題材の終末に行う言語活動を意識しての題材構想例

- ▶ 本題材では、to不定詞を新出言語材料として扱った。その終末には、「将来の夢について、スピーチを行う」という言語活動を設定した。
- ▶ 公開授業では、終末のスピーチ発表に向けて、スピーチに役立つ表現や情報を集めることを目的として、将来の夢について3～4人組で問答を行う活動を設定した。

(例) (A:質問に答える生徒 B~D:質問をする生徒)

B: What do you want to be in the future?

A: I want to be a cook.

C: Why do you want to be a cook?

A: Because I want to make delicious food.

D: What food do you want to make? ...

\* 問答を振り返り、答えた内容をメモする活動を設定し、スピーチに役立つ表現や情報を集められるようにした。



# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ①題材の終末に行う言語活動を意識しての題材構想例

- ▶ よく会話が行えているグループによる中間発表を行い、会話を行う際に大切なことを再確認した。

（会話を行う際に大切なこと）

### ①相手意識を持つ

- ・アイコンタクト
- ・クリアボイス
- ・リアクション（あいづち/繰り返し）

### ②色々な表現を使ってたくさん質問をすることで、多くの情報を集める

\* 生徒の質問例を紹介した





# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ①題材の終末に行う言語活動を意識しての題材構想例

- ▶ 3～4人組での問答を振り返り、質問に対する自分の答えをメモする活動を設定することで、表現や情報を集められるようにした。

\* 題材を通して、スピーチに役立つ表現や情報については逐一メモを取らせた。そのため、公開授業では、**新たに使えると思った表現や情報についてのメモを取らせる**ようにした。

(例)

B: What do you want to be in the future?

A: I want to be a cook.

\* すでに使ったことがある表現のため、メモは取らない

C: What will you do to be a cook?

A: To be a cook I'll study a lot.

\* 新たに使えると思った表現であるため、メモを取る



# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ①題材の終末に行う言語活動を意識しての題材構想例

- ▶ 本題材で学習した言語材料だけを使うようにすると、ただのパターンプラクティスになってしまうので、to不定詞だけでなく今までに学習した表現も使って、会話を継続するように言語活動を工夫した。
- ▶ リアクション（あいづち/繰り返し）で用いることができる表現を、題材の中にちりばめて紹介・練習をした。

(例) ・ Well. (言いたいことを考えているとき)

- ・ That's nice! (興味を示すとき)
- ・ Pardon? (聞き返すとき)
- ・ Really? (本当にというとき)



# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ②即興性と正確性の両方を高めていく工夫

- ▶ 意見や考えを伝え合う活動では、原稿に頼ることなく即興的に英語で伝え合うことが必要だが、その際は間違ってもいいことを前提にしないとなかなか生徒は発話しようとはしない。しかし、だんだんと正確性も高められるようにすることが必要である。
- ▶ そこで、即興的に話をさせた後で、生徒が会話した内容を書く活動を取り入れ、間違っていたことを修正したり、言えなかったことを書けるようにしたりして振り返る活動を設定する。
- ▶ これらを交互に取り入れることで、少しずつ間違いを減らし、言えることを増やしていく効果がある。

即興性  
話すこと



正確性  
書くこと



即興性  
話すこと

# 1. 題材（単元）構想を工夫

## ③パフォーマンステストで話す力を評価する

- ▶ 授業の言語活動の中だけで、一人一人がどれだけの内容や量を話しているのかを見取ることは大変難しい。そこで、到達目標を踏まえたパフォーマンステストを定期的実施し、達成状況を評価していく。

\* 本年度より旭中では、定期テストの点数にパフォーマンステストの点数が含まれるようになった。

- ▶ 生徒にとって、「英語で～できるようになった」と達成感を味わえるように、到達目標を達成できるような授業を計画し、授業中に発話や練習の時間を確保することが大切である。
- ▶ A L T と連携をして、役割を明確にすることも大切である。



## 2. Warm-Up（帯活動）で即興的に伝える活動

### ① “Back to the Board”を取り入れる

- ▶ ペアになり、黒板を背に立つ生徒A、と黒板の方を向いている生徒Bで行う。
- ▶ Bは教師の出す写真（今回は有名なアニメの人物）を見て、英語でヒントを与える。Aはそれを聞いて、答えを当てる。
- ▶ Aが正解したら、今度はAがヒントを出し、Bが答えを当てる。

この活動を始めた頃は、単語が飛び交っていたが、文でヒントを与えるよう呼びかけたところ、文で言えるようになってきた。



## 2. Warm-Up（帯活動）で即興的に伝える活動

### ②“Communication Time”を取り入れる

- ▶ 教師が言った一言に対して、会話を広げられるような質問をする。その質問に対する答えに応じて、さらに会話を広げられるように次々に質問をしていく。

(例) T:教師 S:生徒

T: I have a dream.

S1: What's your dream?

T: I want to be a pro-basketball player.

S2: Why do you want to be a pro-basketball player? ...

活動を始めた頃は、質問を言えなかったり言える質問の種類が少なかったりする生徒が多かったが、どんな質問ができるかをイメージさせる活動や質問例の紹介を継続的に行うことで、ほとんどの生徒が色々な質問をスムーズに言えるようになった。



### 3. 授業を英語で行う

- ▶ 文部科学省のグローバル化に対応した英語教育改革実施計画では、グローバル化に対応した新たな英語教育の在り方として、中学校において「授業を英語で行うことを基本とする」を挙げている。
- ▶ そこで、授業を英語で行うために次のことを心掛けた。
  - 英語で説明を短くし、生徒の発話量を確保する。
  - 実際に対話例を見せたり（デモンストレーション）、ピクチャーカードを使ったりして、視覚化する。
  - クラスルームイングリッシュで、基本的な指示に慣れさせる。
- ▶ 生徒の発話（活動）時間を確保する。  
（授業の75%以上は言語活動に）



## 4. 小中の連携を意識した指導

- ▶ 小学校では、「音声指導」「場面設定」「相手意識」を大切にした授業をしている。これらを中学校でも引き継ぐために、次のことを心掛けた。
- 音声指導...単語や言語材料を定着させるための反復練習をする際、リズムやテンポをよくして、楽しみながら行えるようにした。
- 場面設定...将来の夢について伝え合う場面を設定した。
- 相手意識...原稿をもつと、そればかりを見てしまうので、原稿は作らず即興的なやりとりをすることで、生徒に相づちやアイコンタクト等を意識させ、自然な会話になるようにした。



# 授業実践後の成果

- ▶ 言える質問や答えの種類が増え、会話を広げる質問がよりスムーズにできるようになった。  
→将来の夢についての問答で多くの表現や情報が集められた。
- ▶ 本題材の終末に、ほとんどの生徒が何も見ずにスピーチを行うことができた。  
\*スピーチの原稿を作成し、それに頼る生徒はいなかった。
- ▶ 相手意識を大切にしながら、即興的な問答やスピーチを行うことができた。
- ▶ パフォーマンステストで話す力を評価することが、次の話す活動へのモチベーションを高めた。

# 公開授業研究会

班別協議のテーマ

本時のねらいや伸ばしたい（身に付けさせたい）資質・能力に対する  
「手立て」の有効性について

# 本時のねらいや伸ばしたい（身に付けさせたい） 資質・能力に対する「手立て」の有効性について

## ▶ 良かった点

- ・ 即興力を付けるための帯活動が工夫されていた。話すことへの抵抗が少なくなっていた。
- ・ 良かったグループをモデルとして見せることによって、その後の活動が活発になった。

## ▶ 改善点

- ・ 場面設定を工夫し、より生徒が意欲的に活動に取り組めるようにすると良い。

# 公開授業の振り返り よかった点や改善点等について

- ▶ 公開授業でのよかった点や改善が必要な点を出し合い、付箋紙に書いて記録用紙にまとめた。改善が必要な点は、自校の取組を紹介しながら解決策を考えた。従って、他校の実践も聞くことができ、参考になった。



## 参加者の感想（授業について）

- ▶ 教師が指示・説明をシンプルな英語でしていて、生徒が英語に触れる（聞く）時間が多くていいと思った。
- ▶ 最終目標である「原稿を見ないでスピーチする」を実現させるために、一貫した計画のもと継続的な指導をしている。
- ▶ 4領域が有機的につながっている言語活動が素晴らしい。
- ▶ 生徒が主体的に行う活動がメインだったので、生徒にとっては充実感のある授業だった。
- ▶ 帯活動や相手意識など、普段の指導の成果が感じられる授業だった。また、帯活動が題材のゴールにつながる活動であった。
- ▶ モデルスキットを分かりやすくするために、ICTを活用して絵や写真を提示したり、ジェスチャーなどを交えたりするともっと分かりやすくなる。
- ▶ 同じ質問ばかり使っている生徒や声が小さい生徒がいたので、もっと自信を付けさせるための方策があるとよい。

## 参加者の感想（自校の取組について）

- ▶ 「即興的」とはどこまでを求めているのかいつも疑問に思っていました。その問題が明確になり、またどう対処していくべきか、授業者をはじめ参加した先生方との意見交換をとおして具体的に考えることができた。
- ▶ 普段気になっていたことについて知ることができ、勉強になった。
- ▶ 班別協議の際に、自分の授業の内容も見直すことができ、とても有意義な研究授業・協議だった。



# 次年度に向けて

- ▶ 次年度は、研究の最終年度として、今まで培ってきた「即興的に伝え合う」力をさらにスキルアップできるように、工夫した言語活動を継続していく。
- ▶ 「即興的に話すこと」と「正確に書くこと」を繰り返すことで、スパイラルに両方の力を高めていく。
- ▶ 授業とパフォーマンステストを関連づけた単元構成をこれからも考えていく。
- ▶ 授業を英語で行うための工夫をし、生徒の発話をより多くする。



研究の成果を  
ぜひ見に来て  
ください！